

P-C-4

乳酸菌抽出物(LFK)摂取が皮膚状態に及ぼす影響

The effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* (LFK) on skin condition.

○小林 裕美¹⁾, 曾和 順子¹⁾, 岡野 由利¹⁾, 石名 航¹⁾, 田宮 久詩¹⁾, 安田 滋¹⁾,
水野 信之¹⁾, 石井 正光¹⁾, 古野 哲生²⁾, 岡森万理子³⁾, 嶋田 貴志³⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学, 2) ロート製薬株式会社, 3) ニチニチ製薬株式会社

We investigated the effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* FK-23 (LFK) on skin condition of normal people using randomized double blind placebo-controlled test. After 6, 18 and 30 month of study, skin color in LFK group showed tendency to be lighter than in placebo group. Improvement of pigmentation was recognized clearly in 7 out of 9 in LFK group, whereas in 1 out of 7 in placebo group.

【目的】

乳酸菌抽出物「LFK」は、*Enterococcus faecalis* FK-23 菌を酵素で溶菌した健康食品素材である。我々は、「LFK」の継続的飲用が皮膚の及ぼす影響について二重盲検比較試験を行い、昨年および一昨年に色素沈着と保湿に関する項目で良化の傾向が見られる事を発表してきた。本年は、3年間に及んだ臨床試験の、特にアンケート結果について、良好な結果が得られたので、これについて報告する。

【方法】

20代から50代までの健康な男女28名を無作為に2群に分け、LFK群(15名)はLFK1.0gを含有する顆粒食品を、placebo群(13名)はLFKをデキストリンに置き換えた顆粒食品を、継続摂取した。摂取開始から3ヵ月おきに、経表皮水分蒸散量(TEWL)、表皮角層水分量および皮膚色差(L値)の測定と問診および皮膚の観察を行った。また、摂取前後の皮膚状態に関する自覚症状をアンケートにより調査した。

【結果】

試験開始時の2004年2,3月の平均を100とした時、2004年、2005年、2006年の8,9月の非露光部L値は、LFK群(4名)で、100.5(±3.5), 102.6(±2.8)及び102.4(±3.4)、placebo群(6名)で、97.2(±3.9), 97.6(±1.6)及び97.8(±2.7)となり、LFK群に色素沈着改善傾向がみられた(repeated measure ANOVA $p=0.0299$)。また、被験者全例で飲用期間中に本剤内服に起因すると考えられる副作用はみられなかった。飲用36ヶ月目のアンケートにおいて「くすみ感は改善されたか」の問いにLFK群で78%、Placebo群で14%が「改善された」と回答した(Mann-Whitney's U test $p=0.0147$)。また、「肌のつや」「しっとり感」「しみの改善」「透明感」「そばかす」「肌が白くなる感じ」の問いに関しても、LFK群(9名)で50%~75%が改善・良化と回答し、Placebo群では、0%~14%が改善・良化と回答した(Mann-Whitney's U test $p=0.0068\sim0.0662$)。

【結論】

3年間にわたる飲用試験において、LFKの飲用は色素沈着改善や皮膚の健康状態に関する自覚症状の改善という皮膚に良い影響を与える事が示唆された。また、飲用期間中の安全性にも問題はみられなかった。長期飲用後のアンケート調査の結果、計測機器のみでは把握しにくい皮膚の質感に関してもより明確に効果が実感として感じられていることが明らかとなった。食品が及ぼす影響といった補完代替医療領域の検討を行う際には、このようなヒトの感覚を指標の一つとして評価する事も重要であると考ええる。